



山梨大学 (山梨県)

徹底した研究指導。修了生の約50%が論文公刊。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

◇歴史

山梨大学の歴史は古く、江戸(えど)昌平黌(しょうへいこう)の分校である甲府学問所「徹典館(きてんかん)」が1796年に設立されたことに始まります。その後、さまざまな変遷を経て、1949年に山梨師範学校、山梨青年師範学校、山梨工業専門学校(現山梨大学)の3つの教育機関が母体となり、山梨大学が発足し、2002年には山梨医科大学と統合して、現在の山梨大学となりました。山梨大学は、歴史ある大学です。

◇キャッチ・フレーズ「地域の中核、世界の人材」

このキャッチ・フレーズのもと、山梨大学は個人の尊厳を重んじ、多様な文化や価値観を受け入れ、自ら課題を見だし解決に努力する積極性、先見性、創造性に富んだ人材の養成を目指しています。

また、世界に誇るクリーン・エネルギー研究、クリスタル科学研究、そして日本で唯一のワイン科学研究など、未来世代に向けての世界規模の研究を、地域企業との協力・連携を行いながら進めています。

◇組織

学部：教育学部、工学部、医学部、生命環境学部

大学院：医工農総合教育部(修士・博士)、教育学研究科(教職大学院の課程)

○教員数(本務者)： 837人

○学生数 合計： 4,856人

(大学院生)： 954人

(学部生)： 3,876人

(非正規生等)： 26人



② 国際交流の実績

2025年

大学間交流協定数：18カ国・地域、51協定



③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

2025年：留学生数236人、日研生3人

2024年：留学生数214人、日研生3人

2023年：留学生数235人、日研生1人

山梨大学では独自の「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」を2016年10月から行い、毎年優秀な修了生を輩出してきました。

「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」受入れ実績

2025年：2人

2024年：2人

2023年：2人



④ 地域の特徴

山梨県は東京の西隣に位置しながらも、自然が豊かで、山梨大学からは富士山が見えます。山梨県では、桜だけではなく、桃の花見も行われるほど桃の生産量が多く、ぶどうの生産量とともに日本一です。また、ワインの生産もいち早く始まり、県内に多くのワイナリーが点在しています。一方、大学周辺に史跡も多く、県内各所に数多くの博物館や美術館があるので、歴史や文化の香りに触れることもできます。普段は自然豊かな中で落ち着いて勉強や研究に勤しみ、休日には気軽に東京へと足を伸ばせる、留学生にとって理想的な環境だと言えます。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

◇選べる2つのコース

A「研究コース」(上記「a)」に該当)

日本学(言語・文化など)の専門的な学びを深め、将来的に日本学のエキスパートとして活躍することや大学院進学を目指す人のためのコースです。学生はゼミに所属し、担当教員による徹底した研究指導のもとで、自らの研究テーマを掘り下げていきます。研究の成果は学会発表や論文投稿など学術的発信へとつなげることができます。また、希望者は帰国後も研究指導を継続して受けることができ、優れた研究成果は本学紀要に掲載される可能性もあります。

B「日本語コース」(上記「b)」に該当)

日本語能力を高めつつ、日本でしかできないような事柄をテーマにして調査します。指導教員、または留学生のための日本語Student Assistantのサポートを得てレポートを作成し、それに基づいたプレゼンテーションができるようにします。

◇レベル別、目的別の日本語授業

日研生が受講できる日本語科目は4レベルに分かれており、学習到達度に応じて選択できます。授業では「論文・レポートを書く」「口頭発表を行う」など明確な学習目標が設定されており、目的に応じて科目を履修できます。JLPT N1対策科目も開講されており、夕方にはStudent Assistantとの日本語会話練習も行われています。

◇全学共通教育科目から専門科目まで

日本語科目以外は全て日本人学生と共に学ぶことができ、日本人学生との交流や協働学習に適した学習環境となっています。日本語のレベルによっては、全学共通教育科目(一般教養科目)だけではなく、専門科目の授業も受けられます。言語、文化文学、歴史、経済、政治、教育、異文化理解など自身の興味に応じて授業を選択できます。



③ 受入定員

12名（大使館推薦3名、大学推薦9名）

④ 受講希望者の資格、条件等

- ・ JLPT N2以上、または同等以上の日本語力を有すること。
- ・ 日本文化、日本社会の理解に努め、母国との架け橋となるのに相応しい者。
- ・ 本国において、日本語・日本文化に関する教育を行う学部・学科に在学していることが望ましい。

⑤ 達成目標

- ・ コース修了者はJLPT N1の取得を目標とする。
- ・ 修了論文、または修了レポートを作成し、成果発表会でプレゼンテーションする。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年9月下旬 ～ 2027年9月下旬

（在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月 ～ 2027年9月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月下旬： 渡日（通常9月下旬から受入れ開始）
日本語プレイスメント・テスト、ガイダンス
- 10月： 後期授業開始
- 11月： 大学祭
生け花体験
後期「にほんごサポート」開始
甲府市岩窪地区住民との文化交流会
- 12月： 学長主催外国人留学生懇談会
Holiday Party
- 1月： 山梨県内の中学校/高校訪問
- 2月： 中間発表会
実地見学旅行（1泊2日）
- 4月： 信玄公祭り
日本語プレイスメント・テスト
前期授業開始
- 5月： 前期「にほんごサポート」開始
諸外国語カフェ
- 7月： 世界のかき氷（食べ物異文化交流会）
- 8月： 成果発表会
- 9月： 修了式
- 9月下旬： 帰国



餅つき体験
（地域住民との文化交流会）



生け花体験



実地見学旅行



信玄公祭り

⑨ コースの修了要件

選択したコースによってプログラム修了に必要な科目数が異なります。

選択/必修	A 「研究コース」	B 「日本語コース」
1. 必修 （ゼミに相当する科目）	2科目・ 4単位	—
2. 選択必修 （日本語科目）	2科目・ 4単位	3科目以上・ 6単位以上
3. 選択 （日本語科目以外）	6科目・ 12単位	6科目以上・ 12単位以上
合計	10科目以上・20 単位以上	10科目以上・ 20単位以上

上記に加え、A「研究コース」、B「日本語コース」両コースともに成果を報告する口頭発表が2回求められ、修了者に対しては修了証書が発行されます。成績証明書の発行も可能です。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

本学では、セメスター制（2学期制）とクォーター制（4学期制）を併用しています。セメスター制の科目は各学期15週間で構成され、クォーター制の科目は各学期8週間で学びます。授業は1コマ90分で、セメスター制の科目は15回、クォーター制の科目は8回行われ、試験等に合格すると1～2単位が付与されます。9月と4月に日本語プレイスメント・テストが実施され、学生はその時点の日本語能力に応じた科目を履修することができます。また、A「研究コース」を選択した学生は、ゼミに所属し、担当教員による徹底した研究指導を受けながら研究を進めます。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目(A「研究コース」選択者のみ)

必修科目（ゼミに相当する科目）

・地域社会システム学演習（後期）

・地域社会システム学セミナーI（前期）

文献収集、講読、データの収集方法と分析方法を習得し、論文にまとめ上げる

II) 選択科目

選択必修科目（日本語科目）

・日本語中上級I 論理的根拠に基づいて話す

・日本語中上級II レポートの書き方

・日本語上級I 論文の書き方

・日本語上級II 資料読解と発表のし方

・日本語LR JLPT N1レベルの読解演習

・ビジネス日本語 ビジネス場面で用いられる日本語

*上記以外に初中級から中級レベルの日本語科目が6科目あります。

選択科目（日本語科目以外）

全学共通教育科目（一般教養科目）だけでなく、専門科目の授業から、言語、文化、文学、歴史、経済、政治、教育、異文化理解など、自身の興味と日本語力に応じて科目を選択できます。

*これまでのプログラム生が履修した主な科目

・日本事情I/II<日本文化を見つめなおす>

・日本語教授法<日本語の教え方の基礎>

・日本語の音声・音韻<日本語音声学>

・切り絵と文化<切り絵と文化との関わり、技法>

・日本国憲法<社会問題と法>

・書写演習I/II<書道の知識と技能>

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

・日本事情I/II

講義、ディスカッションと、実地見学旅行や地域交流を有機的に結び付けて授業を行います。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

日本語科目以外は全て日本人学生と共に学ぶことになりますが、以下の3科目は特に「国際共修」ということを意識して授業が行われています。

・日本事情I/II

様々な視点から日本文化を見つめなおす

・Japan Viewed from the Inside and Outside

社会学・人類学の視点から現代の日本社会を理解する

・Intercultural Understanding through Images

自文化を振り返り、異文化を理解する

⑪ 指導体制

「研究コース」、「日本語コース」いずれの学生にも本学学生がチューターとして1年間日本での生活や日本語学習のサポートをします。また、日研生は国際化推進センターに所属し、日研生プログラム担当教員が指導します。

日研生プログラム担当教員

教員名	専門分野	キーワード
江崎 哲也	音声学 日本語教育学	学習者の音声 音響音声学 コーパス言語学 ブルガリア語
伊藤 孝恵	日本語教育学 社会学	日本語教育 キャリア教育 留学生支援 多文化共生
布村 猛	日本語教育学 音声学	学習者の韻律 フィールド言語学 地域日本語教育



Holiday Party



G-Philos (グローバル共創学習室) で楽しく日本語会話

■宿 舎

○宿舎数

単身用101室、夫婦用2室、世帯用2室

○宿舎費

単身用 12,000円～15,000円/月、

夫婦用 17,000円/月、世帯用 21,000円/月

※上記には、布団レンタル代（希望者のみ）、電気・ガス・水道等の光熱水費、共益費、退去時居室清掃費は含まれていません。

○宿舎設備・備品

主に各部屋に机・イス・ベッド・クローゼット・バス・トイレ・エアコン（バス・トイレは共用のこともあります）。

キッチン・洗濯室は共用（宿舎により異なる）

○宿舎周辺の生活情報、通学時間

大学・最寄りのコンビニエンスストアまで約1km、最寄りのスーパーまで約2km

通学時間：自転車で約5分（宿舎により異なる）



宿舎外観

■修了生へのフォローアップ

SNSやE-メールで進学、または就職についての相談に応じます。なお、「研究コース」修了学生に対しては、修了後1年にわたって派遣校の指導教員と共に研究指導を行い、学会での発表や論文投稿を目指します。これまで山梨大学では独自の「山梨大学日本語・日本文化研修プログラム」も行ってきましたが、このプログラムを含めた修了生のうち、終了後1年以上を経た修了生の約50%が本学の紀要に投稿し、掲載されています。また、そのうちの1名は中国国内で行われた論文コンクールで上位入賞を果たしています。



大村智記念学術館

（本学を卒業した大村智博士のノーベル賞受賞とその偉業を称え、創設されました。）

■問合せ先

<担当部署>

山梨大学教学支援部グローバル推進課

住所：〒400-8510

山梨県甲府市武田4-4-37

TEL: +81-55-220-8047（直通）

FAX: +81-55-220-8019

Email: yu-study-abroad@ml.yamanashi.ac.jp

<ウェブサイト>

山梨大学国際化推進センター・グローバル推進課:

<https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/>

山梨大学:

<https://www.yamanashi.ac.jp/>